



【先週のメッセージとの関連で】

本当の幸せ / マタイ4:23~5:12

● 日本人は「巨人の星」「エースをねらえ」等、闘魂ものの影響もあるかも知

れませんが、自分の幸せに関して、自ら幸せを定義し、幸せの目標設定をし、そして自分自らの手で幸せをつかむという発想が強いのではないのでしょうか。しかし、次の御言葉に聞いて見ましょう。

エレミヤ17章5~6節・・・「主はこう仰せられる。「人間に信頼し、肉を自分の腕とし、心が主から離れる者はのろわれよ。そのような者は荒地のむろの木のように、しあわせが訪れても会うことはなく、荒野の溶岩地帯、住む者のない塩地に住む。」

● 自分で「これが幸せ」と決めつけてしまうと、実はそれ以外の所に幸せがやって来ても、見逃してしまうものなのです。多くの人は病気やケガ、人間関係の困難等々、問題を極力回避し、とにかく「地雷」を踏まずにラッキーな生き方ができればいいと思っています。しかし実際はどうでしょうか？困難に正面から取り組んだからこそ真に「幸福」になれた、という人の方がはるかに多いのではないのでしょうか。なぜでしょう。困難は神からの課題だからなのです。

詩篇119:71 苦しみに会ったことは、私にとってしあわせでした。私はそれであなたのおきてを学びました。

● 八福の教えは「心の貧しい者は幸いです」と切り出します。自分の無力さ、罪深さ、知識のなさを認めるところから始め、自分を含めた人間の罪の問題をしっかりと目を開いて見据え、先ず悲しむべきを悲しみ、次に問題の只中に身を置き、義に飢え乾いて「神の御心」を求め、さらに一步踏み出して平和を自ら創り出していくことの内に、真の幸いをつかむ生き方がある、と主イエスは語られたのです。

● 主は八回「～の人は幸いです」「BLESSED ARE THEY WHO」というパターンを繰り返していますが、この「幸いです」はギリシャ語で「マカリオス」という語であり単に「幸せ」という意味ではなく、「誰かによって」祝福されている人という意味です。神から与えられた課題として、自分の人生に割り当てられた困難や苦難に正面から向き合っていく人は、そう、神御自身から祝福と幸福とをプレゼントして貰える、これがこの八福の教えの「公式」なのです。■

【復旧に取り組む日本を覚えて】

Pray
for
Japan

ダニエル10:12

恐れるな。ダニエル。

あなたが心を定めて悟ろうとし、あなたの神の前でへりくだろうと決めたその初めの日から、あなたのことばは聞かれているからだ。私が来たのは、あなたのことばのためだ。

ダニエルは国同士の大きな戦いを前にしてどうしても祈らなければならぬと感じていました。そこで彼は三週間、御馳走も食わず、肉もぶどう酒も口にせず、喪に服しました。そして三週間祈り続けたところ、御使いがダニエルの前

に立って、上記の御言葉を語ったのです。ここで注意したいのは、祈り始めた最初から彼の祈りが聞かれていたということです。私たちもこの確信を持ちましょう。そして忍耐強く祈り続ける祈りの戦士として立って行きましょう。

【被災地のための祈り】

- 全知全能の主なる神、天の大祭司主イエスを崇めましょう。
- 行政・関係省庁：首相、自衛隊、警察、消防、医療、ボランティア
- 被災地の復興のため：農家、漁業水産関係者、多くの企業の工場
- 被災地の子供たちのため：学校の復旧、霊的な目が開かれるように
- 原発の問題の収束のため、修理のために働く人々、避難生活者
- 日本の教会が一致して地の塩、世の光として用いられるように
- 日本人が偶像礼拝を悔い改め、真の神に立ち返るように。
- 私たちと直接関わりがある人々のために。

福島第一聖書バプテスト教会、神栖めぐみキリスト教会
水戸下市キリスト教会のために。

【Oxford大研究結果：神を信じることは人間にとって自然なこと】

<http://ibnlive.in.com/news/its-natural-to-believe-in-god-oxford-study/152066-19.html>

London: Human beings have natural tendencies to believe in God and life after death, according to a three-year international research project directed by two academics at the University of Oxford.

ロンドン発：神および死後の命を信じる傾向が人間には生まれつき備わっている、とOxford大の二人の研究者の元で三年に亘って行われた国際的調査は結論づけた。The 1.9 million pounds project involved 57 researchers who conducted over 40 separate studies in 20 countries representing a diverse range of cultures. The studies (both analytical and empirical) conclude that humans are predisposed to believe in God and an afterlife, and that both theology and atheism are reasoned responses to what is a basic impulse of the human mind, a university release said. The researchers point out that the project was not setting out to prove the existence of God or otherwise, but sought to find out whether concepts such as Gods and an afterlife appear to be entirely taught or basic expressions of human nature.

- そう言えば2000年前に使徒パウロがローマ人への手紙2章15節で同じことを言っていたような…。だからこそ神の前に人は弁解の余地がない…とも。